

第5章 史跡の整備方針

第1節 史跡の整備基本方針

(1) 基本的な考え方

史跡整備に当たっては、地域住民が史跡を歴史的資産や財産として意識できるよう、地域住民の声を取り入れながら行うものとし、史跡の保存活用のための整備、地域において持続可能な管理・運営のための整備計画をたてるものとする。なお、平成25(2013)年度に策定した「西南戦争遺跡群公園整備基本構想（マスタープラン）」の景観保全の考え方（63頁）を踏まえたものとする。

半高山・吉次峠古戦場、横平山古戦場、高月・宇蘇浦官軍墓地は、これまでの町内公園整備事業で整備が行われており、現在も半高山戦跡においては熊本県カントリーパーク事業としての整備が行われているところである。このように、現在は部分的な整備が進んでいる状況であるが、当町では7カ所の遺跡が国指定史跡となっており、これら全ての遺跡を通して史跡西南戦争遺跡を表現することが理想的である。よって、その他の遺跡も計画的に整備に着手し、史跡全体を“フィールドミュージアム”として回遊できるよう、整備を進めていきたい。

また、遺跡を効率的に回遊するためには、誘導サインの整備が必要である。サインや説明板については熊本県の整備事業で整備されているものがあるので、今後は、それらを最大限活かしたサイン計画をたて、実施していく。

以上、整備を進める際には、改めて詳細な整備計画を練る必要があるが、当町の財政的状況もふまえながら、長期的整備プランを策定して進めていくものとする。その中で、当面は本計画に則った暫定的な整備として短期的整備プランを策定し、今後概ね10年間をかけて実施していく。なお、これについては、史跡の保存・活用の為に、前章までの方針を踏まえたゾーニング（66頁図31）を行い、部分的に公有地化を行いながら計画的に整備に着手するものとする。

《史跡西南戦争遺跡フィールドミュージアムプラン》

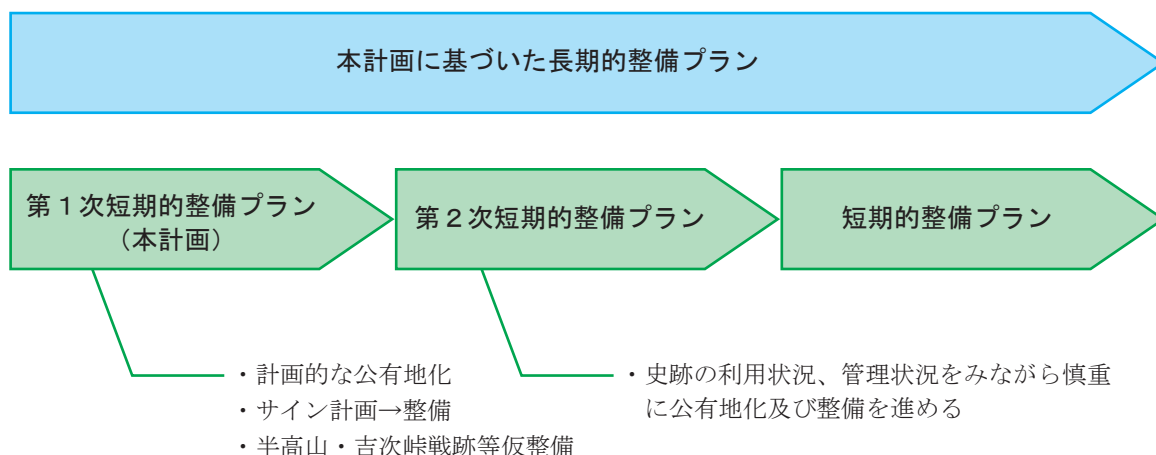


表17 本計画における史跡西南戦争遺跡（玉東町域）公有地化・整備スケジュール（予定）

	H25年 2013年	H26年 2014年	H27年 2015年	H28年 2016年	H29年 2017年	H30年 2018年	H31年 2019年	H32年 2020年	H33年 2021年	H34年 2022年	H35年 2023年	H36年 2024年	H37年 2025年	H38年 2026年	H39年 2027年	備考
西南戦争後	136年	137年	138年	139年	140年	141年	142年	143年	144年	145年	146年	147年	148年	149年	150年	
	○史跡指定				○140周年										○150周年	
①半高山・吉次峠古戦場		公有地化		仮整備		多目的広場整備										
		メイン道路整備		園路等整備												
②横平山古戦場				公有地化		多目的広場整備										メイン道路、遊歩道（園路）整備
③二俣瓜生田・古閑官軍砲台跡		公有地化		仮整備		整備										遊歩道（園路）整備
サイン整備					計画	実施										
ルートマップ作成配布			作成													

＜参考＞史跡西南戦争遺跡の景観保全の考え方

（平成25年度策定「西南戦争遺跡群公園整備基本構想」より）

1 国指定史跡にふさわしい史跡景観の保全

西南戦争は、複雑な地形を有していたために戦地となったと考えられる。これらの地形はほぼ当時のまま残されているが、自然林や果樹園、公園などに土地利用が変化し、往時の景観とは異なっているものがある。史跡指定に伴いこれらの景観について、現在の土地利用を考慮しつつも一部では復元を行っていくことも検討する必要がある。また、史跡の活用を考慮し、快適に史跡に親しまれるために史跡周辺の美化に取り組む必要がある。

2 戦いに活かされた往事の眺望景観（見通し）の確保

西南戦争を戦うためには、見通しの確保できる地形という特徴を活かし、戦況を確認できることが重要であった。来訪者などが往事の様子を体験できるように、地形や植生の変化等によって見通しが遮られている場所については、新たに見通しを確保した景観づくりを行う。

3 農村景観の保全

地形については、概ね往時の状況を留めているが、植生や土地利用については変化しているところも多い。特に、斜面地の多くは、果樹園や野菜などの田畑として、地域の暮らしを支えてきた。これらの景観と史跡区域が調和しつつ、保全していくような取り組みについても今後の課題である。

4 史跡を楽しむための新たな景観の創出

既に公園として整備されている史跡については、サクラ・ツツジなどの植栽が行われ、花のみどころとして、地域の人々に親しまれている。これらの景観を適切に保全し、史跡を学び・楽しみながら快適に親しめるための新たな景観づくりを行うことも必要である。

5 史跡ネットワークを視野に入れた沿道景観の整備

「西南戦争遺跡」として一括して史跡指定が行われていることを考慮し、それぞれ単体の史跡の景観だけでなく、史跡と史跡をつなぐネットワークルートにおいても景観に配慮し、西南戦争遺跡のトータルな景観形成を目指す必要があると考えられる。そのため、史跡をつなぐ沿道の景観整備を行うこととする。

6 住民主体の景観保全整備への取り組み

「西南戦争遺跡群」を活かした地域づくりを行っていくためには、史跡保全や公園整備だけでなく、住民が主体となった景観保全に西南戦争遺跡群と調和のとれた地域の景観を形成するために、住宅周辺や農地などの景観づくりなどを住民主体で進めていく。

(2) 史跡の整備・基本方針

史跡西南戦争遺跡は点在する数カ所の遺跡により構成されている。また、遺跡だけでなく、この地域における起伏に富む地形が戦場となったという事を示すため、次のテーマを掲げ、整備の基本方針を示す。

西南戦争歴史パノラマ ～みる・しる・まなぶ西南戦争～

西南戦争における「田原坂・横平山・吉次峠の戦い」を、実際の現地にて見て知り、学習を深める。

下の写真は、半高山古戦場から一帯の遺跡をパノラマで見たものである。このように、来訪者には現地において遺跡を眺望し、各遺跡をフィールドミュージアムとして回遊しながら、遺跡についての理解を深めてもらうことが望ましい。



図68 半高山戦跡から見た西南戦争歴史パノラマ

(3) 史跡西南戦争遺跡フィールドミュージアムイメージ

史跡を構成する遺跡は各地に点在している。それらを一体の遺跡として示す為には、統一したサインや説明板、その他効率的に遺跡を回遊するためのネットワークルートが必要となる。さらに、本計画でC地区（4頁）とする関連遺跡についても、ルートに組み込むことによって遺跡の総合的な理解を促す。なお、ルートについては、九州自然歩道を利用したトレッキングルートや自家用車でも回遊することのできるルート、公共交通機関を利用するルート等、来訪者が快適に遺跡を回遊することができるように配慮する。この他、沿道景観の整備も今後考慮していく必要がある。

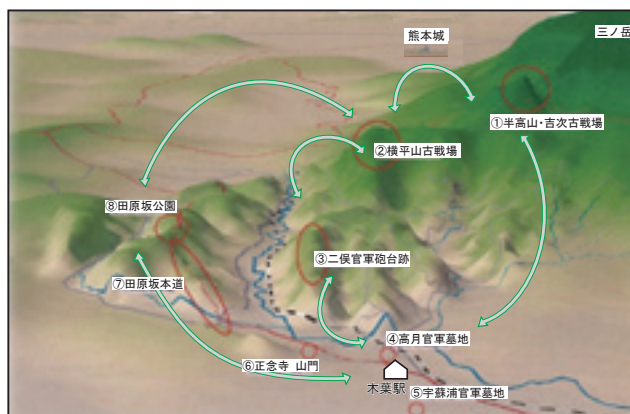


図69 フィールドミュージアムイメージ

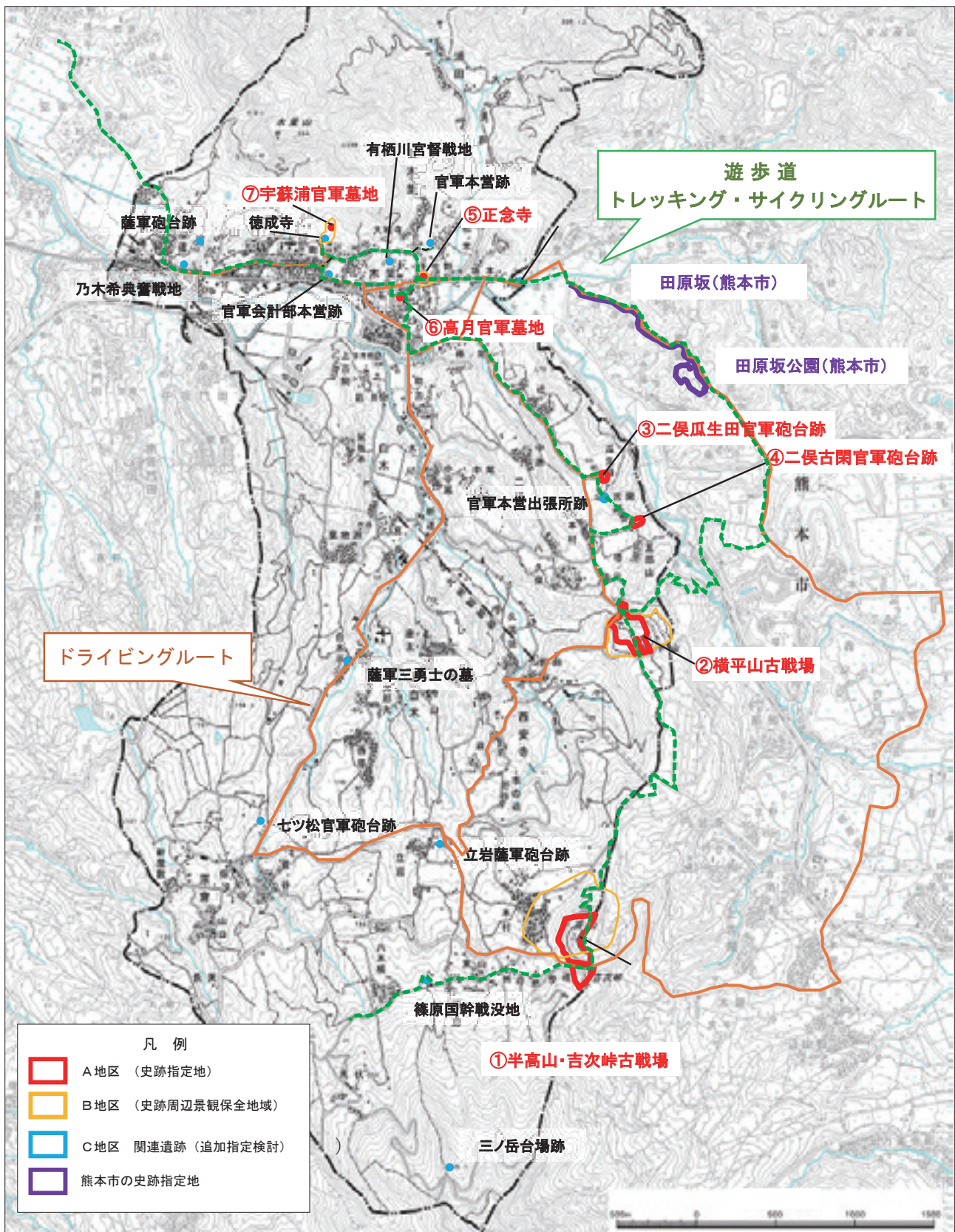


図70 フィールドミュージアムルート案

(4) 保存や整備に係る各遺跡のゾーニングについて

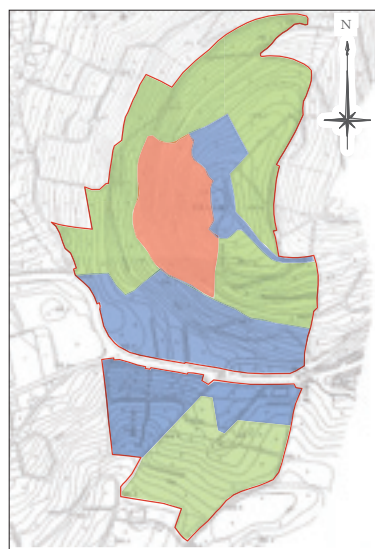
第1次短期的整備においては、遺跡ごとに特徴を踏まえたゾーニングを行い、それに基づいた段階的な整備を実施する。

一次地区は現状を保存する地区、二次地区は公開活用のために整備する地区、三次地区は現状の景観を保全する地区とする。

表18 ゾーニング表

ゾーニング	説 明
一次地区	現状保存・保存整備地区 遺構、遺物が良好に保存されており、現状維持もしくは保護層等で保存すべき地区。
二次地区	公開・活用整備地区 史跡の理解のために、遺構表示や説明板等で史跡の特徴を示す等の整備が必要な地区。
三次地区	景観保全地区 従来の生業により景観を保全し、地下遺構や地形を保存していく地区。

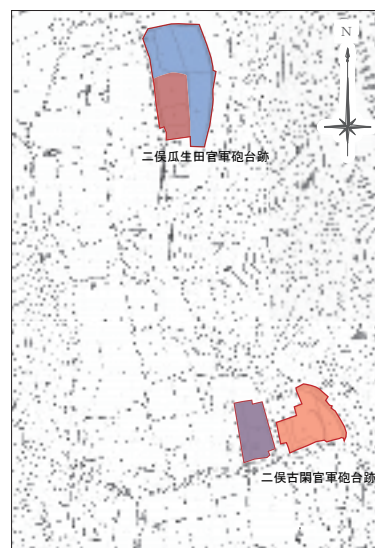
※本計画（概ね10年）では、二次地区について公有地化を図り保存・活用に取り組む。



半高山・吉次峠古戦場



横平山古戦場



二俣官軍砲台跡



正念寺・高月官軍墓地・宇蘇浦官軍墓地

図71 各遺跡ゾーニング図

第2節 遺跡別の整備管理方針

ここでは、遺跡の保存・活用の方針を踏まえた上で、各遺跡の具体的な整備方針、安全・防災対策等について述べる。

① 半高山・吉次峠古戦場

【整備方針】

遺構の展示

半高山山頂部の巨石を利用した陣地遺構について説明板等で表示する。また、地形や旧道についても説明板や舗装等によって表示する。

眺望の確保

半高山山頂部から周辺が見渡すことが出来るよう、植栽を見直し、雑木を伐採する。また、遺跡の展望について、写真や地図を交えた説明板等で初めての来訪者でもわかりやすい表示を行う。

既設の展望台については、現状を維持しながら、老朽化している箇所は修繕を行う。

ガイダンススペースの設置

半高山の南側麓の平地に多目的広場を設け、来訪者が気軽に立ち寄り、遺跡についての情報収集ができる出来るスペースを確保する。ここは、遺跡を知るためのイベントの開催や、地域のコミュニティスペースとしての利用等、多目的に利活用するものとする。

便益施設の整備

ベンチ等の便益施設については、状態により、適宜新設について検討する。

半高山山頂部のトイレは、利用者が多いため、現状を維持するか改築を検討し、半高山麓の多目的広場にもトイレの設置を検討する。一方、吉次峠公園側のトイレについては老朽化が著しいため、撤去する。

アクセス道路の検討

来訪者が山頂部へアクセスするためのルートを確保する。車道（平成21年度よりカントリーパーク事業で整備中）の他、現在の農道を活かした遊歩道等の園路の整備も行う。また、九州自然歩道である既設道路についても、必要な場合は整備を検討する。

植生の管理

半高山山頂部及び吉次公園には桜やツツジの植栽があるが、眺望を阻害しているものもあるため、一部伐採も検討する。半高山のメインエントランス部分には、往時を偲ばせ、来訪者の目を楽しませる新しい植栽を検討する。

果樹園の管理

吉次公園側の斜面地は果樹園として残し、遺跡来訪者のために開放する。

その他

山頂部の鳥居に刻まれた文字は、信仰者の有無を確認した後、処置を決定する。



図72 展望台の状況



図73 吉次公園側果樹園

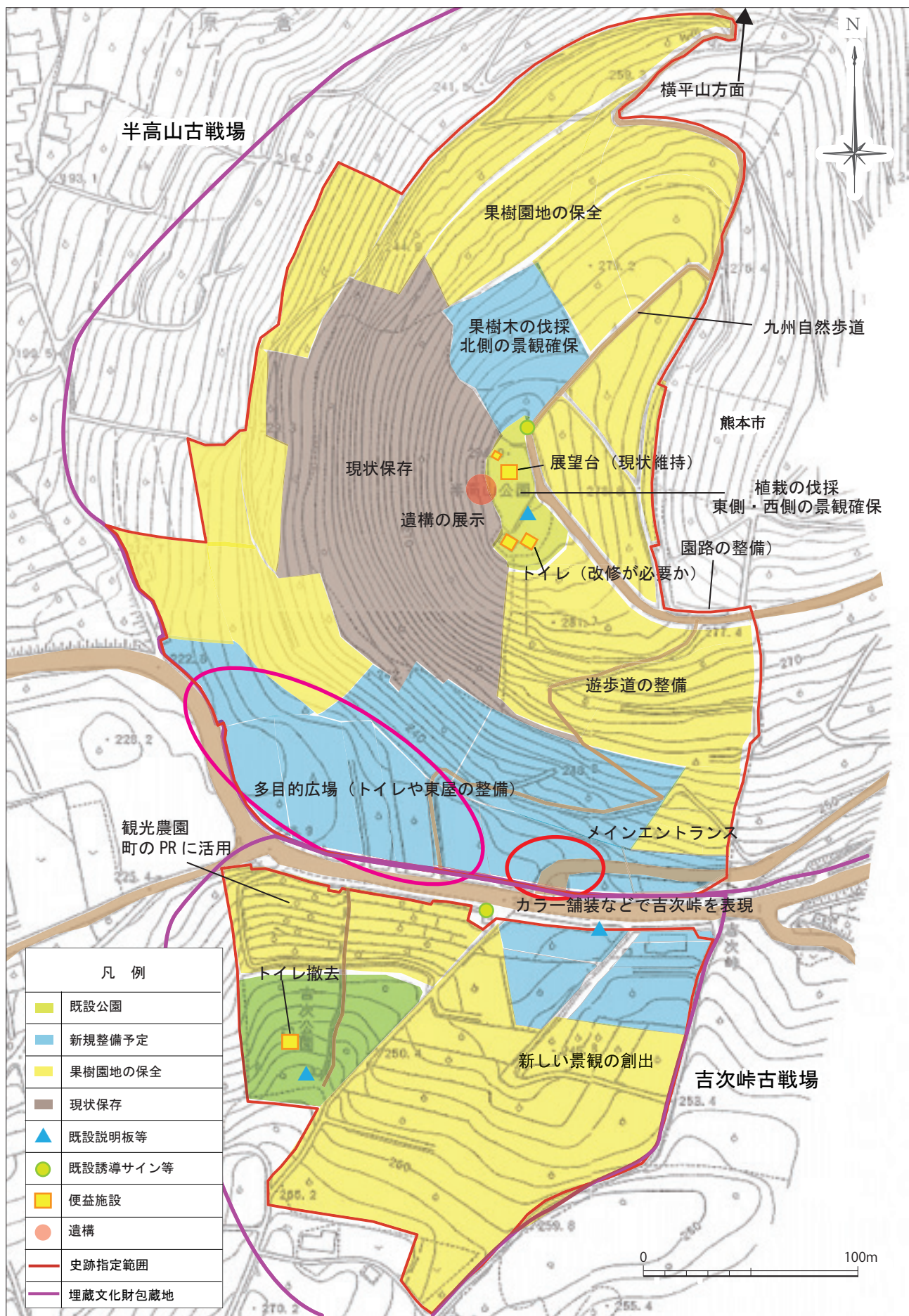


図74 半高山・吉次峠古戦場 整備計画図

【安全・防災等管理方針】**アクセス道路**

車道や遊歩道は利用者の安全を第一に考え、滑り止めや手すりなどの設置を考慮する。また、緊急車の進入についても考慮する。

多目的広場

防犯上、夜間施錠することを検討する。

展望施設、展望スポット

転落、転倒防止の安全柵を設ける。

② 横平山古戦場**【整備方針】****遺構の展示**

横平山山頂部の陣地遺構について説明板や芝等で視覚的にわかりやすい表示をする。

横平山北側山腹の陣地遺構や仮埋葬地の遺構を表示するための説明板やサインを設ける。

眺望の確保

横平山山頂部から周辺が見渡すことが出来るよう、植栽を見直し、雑木を伐採する。また、遺跡の展望について、初めての来訪者でもわかりやすい表示を行う。

既存の展望台については、現状を維持しながら老朽化している箇所は修繕を行う。

便益施設の整備

ベンチ等の便益施設については、状態により適宜新設について検討する。

横平山山頂部のトイレは、現状を維持するか改築を検討する。

アクセス道路の検討

来訪者が山頂部へアクセスするためのルートを確認する。車道の見直しの他、横平山北側斜面の遊歩道等の園路の整備も行う。また、九州自然歩道である既設道路についても、必要な場合は整備を検討する。

植生の管理

横平山山頂部には桜やツツジの植栽があるが、眺望を阻害しているものもあり、一部伐採も検討する。

その他

横平山麓の湧水地への来訪者のための駐車場スペースの確保を検討する。

【安全・防災等管理方針】**アクセス道路**

半高山同様、山頂部を含め斜面が多いため、見学者が安全に登ることができるよう配慮した園路を設置、整備する。また、現在の農業用道路を活かした管理用道路の整備を検討する。



図75 山頂部展望台

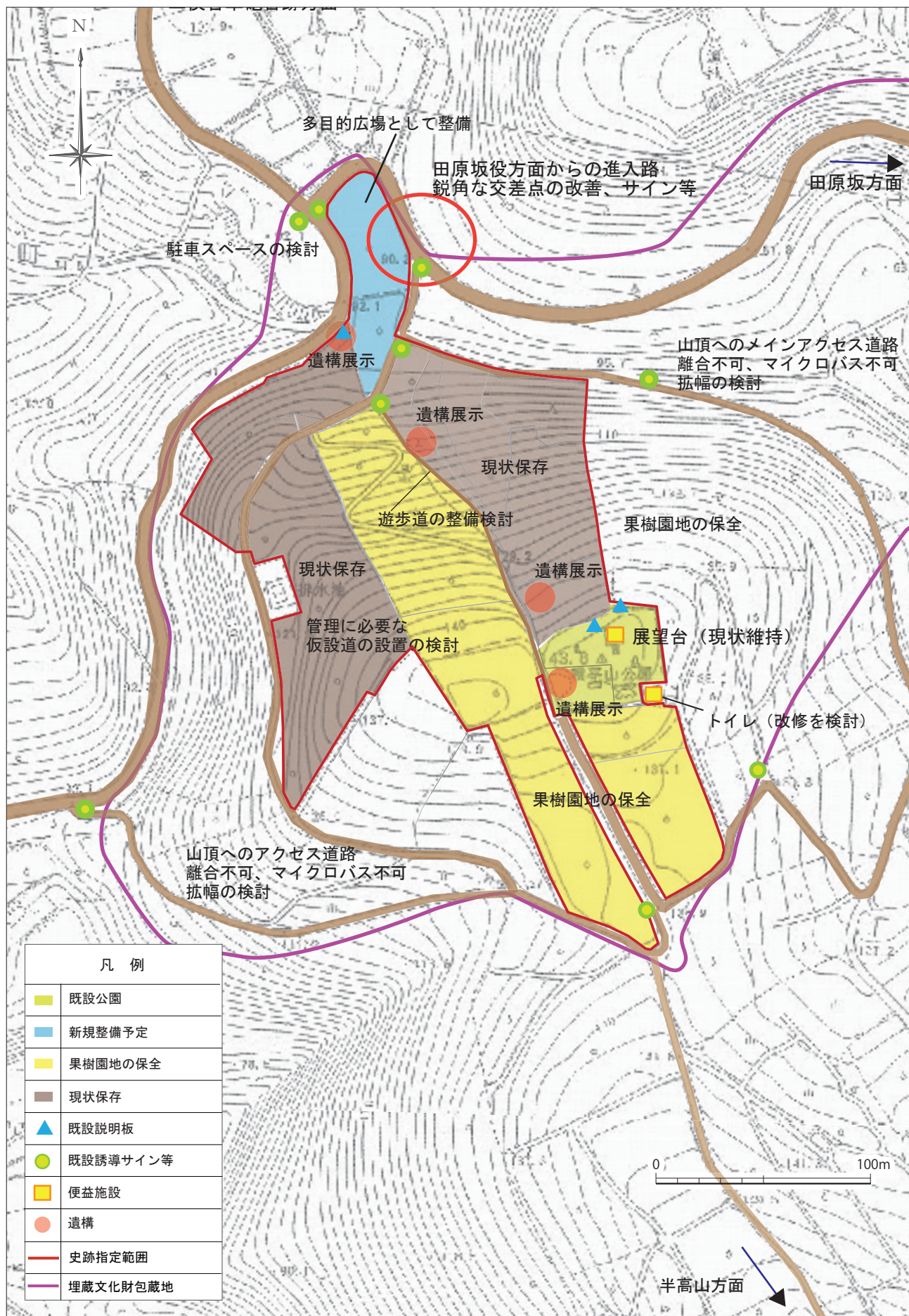


図76 横平山古戦場 整備計画図

③ 二俣瓜生田官軍砲台跡・二俣古閑官軍砲台跡

【整備方針】

遺構の展示

瓜生田砲台跡の発掘調査で確認された轍跡等の遺構について、地表面に表現する等の方法で、視覚的にわかりやすく表示する。

現存する古写真を参考に復元整備を行う。西南戦争当時は両砲台とも平坦な畑地であったので、復元では平坦地であったところを再現し、覆土や芝等で地表を保護しながら説明板やAR等を導入する等して当時の状況を再現、可視化する。また、田原坂から視認しやすいような色調にする。

眺望の確保

両砲台から田原坂一帯を見渡すことができるよう、眺望を阻害している史跡東側に広がる竹林等の伐採を行う。

便益施設の整備

広場にはベンチ等を設置し、来訪者がゆっくりと史跡を見学できるよう配慮する。

周辺には駐車場スペースが無いため、スペース確保に努める。

アクセス道路の検討

両砲台を往来できるよう、遊歩道の整備を行う。その際、車道とは区別し乗用車での来訪者がわかりやすいよう、サイン等で誘導を行う。

その他

周辺には集落があるため、整備の際には個人住宅のプライバシー等に配慮する。

【安全・防災等管理方針】

眺望の確保

各遺跡は現在段々畑であるため、段差による転落を防ぐための囲柵を景観に配慮しつつ設置する。

アクセス道路の検討

各遺跡を結ぶアクセス道路は狭く、一方は崖であるため、転落防止のための囲柵を設置する。また、土壁が露出しており土砂流出の危険性があるため、対策を講じる。



図77 両砲台をつなぐ道路の現状

④ 正念寺

【整備方針】

遺構の展示

山門は現状を維持し（保護対策をとり）つつ、説明板により解説を行う。また、正念寺についての説明も併記する。

その他

本堂や境内地は、西南戦争当時からの配置が変わっているものもあるため、説明板やパンフレット等により表示する。

正念寺山門の南側に位置する国道208号沿いには、



図78 山門前の現況

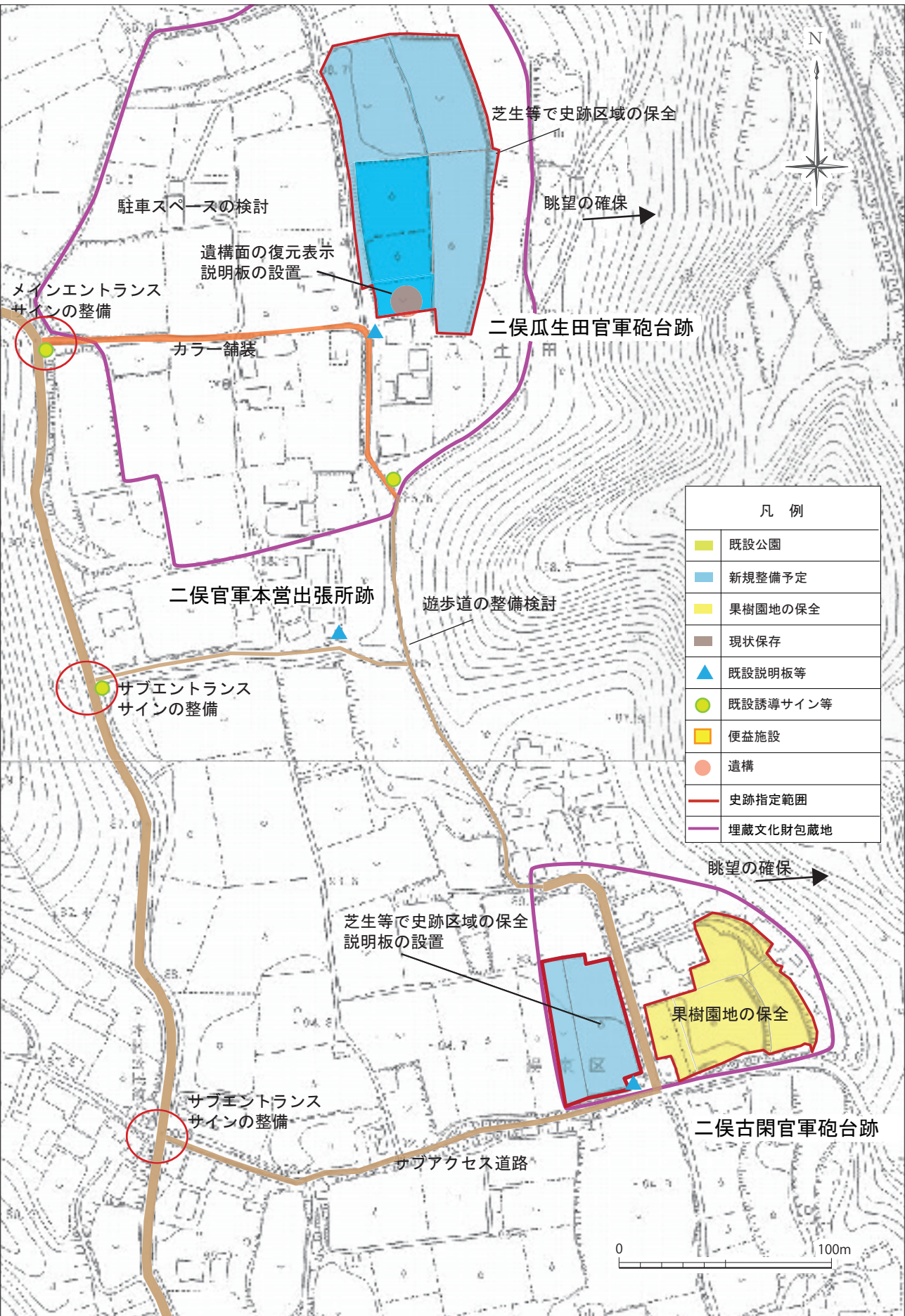


図79 二俣官軍砲台跡整備計画図

三池往還の旧来の雰囲気を残す建造物がある。これらの調査を行い、町並景観の保全も検討する。

【安全・防災等管理方針】

正念寺山門は国道208号に面し、正面から見学する際には危険を伴うため、安全に配慮する。

山門の柱は老朽化が著しいため、状況に応じて適宜修理を行う。

山門の柱には当時の銃弾丸が残存する。現在、著しい風化はみられないが、今後保存処理等を検討する。

⑤ 高月官軍墓地・⑥ 宇蘇浦官軍墓地

【整備方針】

遺構の展示

墓石は当時のまま残存する貴重な遺構であるため、現状を展示するが、劣化の状況等を定期的に観察した上で今後の展示方針を決定する。

植生の管理

遺構に悪影響を及ぼすと予測される植栽等については、伐採を検討する。

【安全・防災等管理方針】

宇蘇浦官軍墓地の園路は土砂の流出が著しいので、土砂の流出を防ぐ対策を講じ、改めて整備を行う。また、斜面土砂の流出が懸念されるため、植物等による土砂流出防止の他、土木工事等の措置も検討する。

両官軍墓地の砂岩製墓石は風化が著しく、破損しているものもあり、これまでに適宜修復や保存処理を行っている。今後、定期的な観察を行い、修復や保存処理の必要性のあるものは、適宜行う。



図80 墓石の現況

⑦ ガイダンススペース

【整備方針】

各遺跡を効率的に回遊し、総合的に理解する拠点スペースとして、ガイダンススペースの設置を検討する。

候補地としては木葉駅北口ふれあい交流館、半高山古戦場多目的広場があげられる。木葉駅北口ふれあい交流館は平日・土曜日の午前6時50分～午後5時50分まで無料開放している施設であり、現在、簡易的な展示や説明パネルを設置している。今後も定期的な展示替えを行いながらガイダンススペースとして活用する。半高山古戦場多目的広場は、開放スペースであるため、説明板やパンフレットの設置によりガイダンススペースとして活用する。しかし、いずれも無人（休日閉館）であるため、今後はガイドや音声案内等の来訪者対応について検討する必要がある。



図81 木葉駅北口



図82 正念寺・高月官軍墓地・宇蘇浦官軍墓地周辺 整備計画図

⑧ 回遊道路・サイン

【整備方策】

回遊道路の整備

遺跡を効率的、快適に回遊する為に、各遺跡の遊歩道の整備の他、各地点を結ぶ道路の整備を必要に応じて行う。遊歩道については、既存の九州自然歩道を利用し、遺跡へアクセスしやすいよう誘導サインの充実を図る。

各遺跡間の回遊

遺跡を回遊する手段としては、徒歩や自転車（レンタサイクル）等があげられるが、公共交通機関でアクセス出来るよう今後検討する必要がある。

サイン・説明板の整備

各遺跡をネットワーク化する誘導サインについては既設のサイン（南戦争後記念事業として九州自然歩道に熊本県観光課が設置したもの）を最大限活用し、統一したものを設置する。また、設置箇所や内容を見直したサイン計画をたて、計画的に設置する。

説明板についても同上の既設板（5カ国語表示）を活用し、その他、昭和初期に建てられた石碑に注釈をつける等、わかりやすさに留意し設置する。



図83 説明板